

## 太田市立太田高等学校アメリカ研修 4 日目 (3/6)

本日も引き続き天気は良いものの気温は下がり、日中でも $-4^{\circ}\text{C}$ 程までしか上がらない一日でした。昨日の経験を踏まえ、今朝は何とか 9:00 までに全員が集まりました。昨夜は各自で帰宅しましたが、予想はしていたものの大混乱。行き先の違うバスに乗った、間違ったバス停で降りてしまったなどホストファミリー宅へ到着するまで二時間、三時間かかったと言うペアもいて、不安な思いをしたのではないかと心配しました。実際状況を知らせてくれた電話では、「ここがどこかわからない」と言う切羽詰まった様子でしたが、通りがかった人が声をかけてくれたり、道を聞いたら親切に教えてくれたりと現地の方の優しさに触れる機会にもなったようです。日記にはその時の心細い気持ちと、それによって学んだこと、そして「いい勉強になった」とのコメントを書いている生徒が多く、ハプニングも自分の糧にしていることが分かりました。それは英語の授業も同じで、昨日苦戦を強いられた生徒も挫折することなく予習をして臨むなど自分なりの方法で立ち向かう姿勢が見られます。授業二日目となった今日の感想を聞くと、昨日に比べると少し慣れてきたと言う声も聞かれました。「今日は自分から発言した!」と報告してくれた生徒もいて、努力した分一歩一歩前に進んでいることが感じられます。

本日の午後は MIT (マサチューセッツ工科大学) を訪れました。ガイドは日本で生まれ、中学、高校と中国で過ごされたという張幸夫さん。東北大を経て昨年 MIT に入学されました。ツアーでは図書館や研究棟、そして硝子工房や鑄造所など珍しい場所も案内していただきました。また、MIT の学生が過去に起こした壮大なイタズラの話など、イメージを覆すようなエピソードには生徒たちも興味津々。ツアーの最後に空き教室を使わせてもらい、改めて簡単に自己紹介をしていただき、質問タイムを取りました。アメリカの食事についてでもいいよ、と最初に皆が話しやすい空気を作って下さり、そういった身近なテーマから思いつくまま質問を投げかけました。なぜ MIT に来たのか、英語はどのように勉強したのか、将来はどんな仕事に就くのかなど、それぞれ疑問に思ったことをどんどん聞いていきます。さぞかし優秀な学生ばかりだろうと思われた MIT でも、自分に自信が無い人が多いこと、張さん自身も高校時代は英語が苦手だったことなど意外なお話も聞けました。張さんから生徒へのアドバイスは、“本気で好きな事を見つけること”。自分が何に情熱を注ぎたいのかを問い続けることで、自分というものが見えてくるから、そのために色々な人に出会って話を聞き、情報収集をして考えること。アメリカの大学進学など遠いことのように感じてしまいがちですが、張さんの興味のあることへの情熱と行動力を目の当たりにし、話を聞いた後は自然と進学の実現策としてこの場所をイメージしている生徒もいました。張さんも努力はしたと仰っていましたが、それを苦勞に感じさせない軽やかさに刺激を受けたに違いありません。昨日のハーバード大学と共に、ただ単に優秀な学生に出会っただけではない経験となりました。



英語の授業の様子



MIT キャンパスツアー

趣味についての話に興味津々



MIT 伝説のイタズラとは…?



様々な内容の質問に答えて頂きました